

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所
所管課 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	Ⅱ-3-② ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	感染症対策及び食中毒	腸管系ウイルス不顕性感染のリスク分析	腸管系ウイルスの感染に不顕性感染者が関与している可能性が示唆されているが、その詳細な実態は不明である。不顕性感染率の算定や分子疫学的解析から地域流行や食中毒、集団感染に対するリスク分析を行うことを目的とする。	1. 健常者から採取した便における腸管系ウイルスの検索(リアルタイムPCRを用いた高感度検出法) 2. 検出されたウイルスの分子疫学的解析(地域流行との関連性)	H25	H27	A	研究目的とした不顕性感染者の存在を確認し、感染率の推計、さらに検出ウイルスと食中毒や患者から検出された地域流行ウイルスとの比較ができた。また、派生的な研究として検出ウイルスの継次的な遺伝子塩基配列の変異の確認をした。	ノロウイルスを原因とする食中毒は患者数が最も多く、また、事件数も多く、更に1事件当たりの患者数も多いことから大きな問題となっている。 ノロウイルスによる食中毒は冬季に集中して発生するが、ノロウイルスの増殖はヒトでしか起こらないため夏季も小規模の流行や不顕性感染を起こしていると言われているが、今回の実態調査でそれが確認された。 また、不顕性感染者と食中毒事例等で分離されたウイルスの塩基性配列が同一であることや感染者の中には1か月以上ウイルスを保有する者がいることは、食中毒や感染症を予防する観点からは注意喚起を行うタイミングや調理従事者に対する注意事項等を示唆する結果が得られていると考えられる。(温泉川)

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
2	廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用	産業廃棄物減量化・再資源化技術支援事業	未利用農産物等の機能性成分を活かした加工技術の開発	廃棄物の削減、県内食品加工業の振興に寄与するため、未利用農産物等(アスパラガス切り下、あん粕、トマト摘果果実、ソバ末粉)の機能性成分を明らかにするとともに、機能性成分を活用できる加工食品・技術を開発する。	未利用農産物等(アスパラガス切り下、あん粕、トマト摘果果実、ソバ末粉)の機能性成分を明らかにする。機能性成分を保持した加工食品・技術を開発し、食品企業へ技術移転する。	H25	H27	B	未利用農産物に含まれる機能性成分を明らかにし、あん粕については商品化を行った。今後の更なる商品化に期待したい。	研究は概ね計画どおり実施されていると感じました。食品機能を専門としております関係で、あん粕のポリフェノール、摘果トマトのGABA、ソバ末粉のルチン、これらの含有量と有効投与量の関係が気になりました。可能であれば、当日にご教示下さい。(仲川)
3	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	ふくしまからはじめよう。震災対応技術実用化支援事業	災害時における超音波センシングシステムの開発	災害発生直後の初動調査など、視界不良状況下で投入するロボットカメラ画像などの視覚情報を補助する、距離検出システムを構築する。	超音波センサ、赤外レーザーセンサ等、測位センサを複数用いたユニットを構築し、かつ検出範囲を広げるためセンサを走査する機構をクローラロボットに搭載した構成とする。	H27	H27	B	目標である、複数センサでの周囲状況認識は、概ね達成した。外部公表も行き、今後の発展も期待できる。	性能は良いと思われ、高いポテンシャルを感じる成果である。 本システムを組み込んだ機器の開発につながるため、「企業とのマッチング」が必要である。災害時対応にこだわりすぎることなく、具体的な応用例・適応例の提案に取り組んで欲しい。(佐藤)

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター
 所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
4	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得の向上の向上	農林水産物の安定供給技術の確立	農業用施設(ため池)における耐震性検証技術の確立	震災後の点検・診断データをベースとして、効率的かつ比較的安価に施設のモニタリングを行う簡易手法や施設の危険度を予測する手法を確立する。	震災後のため池の防災・減災対策に係る現況・劣化状況の確認結果に基づき、状況の把握などを行う。	H25	H27	A	研究成果は、「普及に移しうる成果」として公表され、ため池点検と合わせ、ため池の耐震性診断の指標として活用が期待されるなど、目的は十分に達成した。	簡易測定法と慣行法を適切に組み合わせることによって、ため池の調査を迅速に進めることが可能になったと評価される。簡易法の適用範囲を適切にフローチャートで示すことで現場での活用が促進されると期待される。(信濃)

試験研究機関名 林業研究センター
 所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
5	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	本県に適した品種開発・家畜の改良	マツノザイセンチュウ抵抗性種子の品質向上技術の開発	採種園構成クローンの着花特性を把握し、抵抗性種子の品質向上技術を開発する。	採種園に植栽したクローンの雌花・雄花量の把握等の着花特性、および種子の抵抗性を評価する。さらに、種子の交配実態(父親)を明らかにする。	H23	H27	A	研究成果は、当初の目的を十分に達成したと判断される。	抵抗性採種園の品種ごとの雄花着花性、雌花着花性、各品種から育成した苗木のマツノザイセンチュウ抵抗性を評価して、抵抗性がより高い苗木の安定生産に資する種子生産のための採種園管理技術を開発するという当初の目的は十分に達成しており、高く評価できる。また、この成果を基礎として、平成28年度から開始した新たな研究課題により、さらに抵抗性採種園の生産性を高め、海岸防災林復興のための苗木供給に一層貢献することを期待している。(星)

試験研究(事後)評価整理表

試験研究機関名 水産試験場
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
6	生産力と経営力の強化による自給率の向上と所得の向上	重要水産物の優良種苗生産技術確立試験	水産生物の種苗性改善に関する研究	種苗の放流効果を高めるため、経済形質の向上と生産経費の削減を図る。	ヒラメ、カレイ類の無眼側色素異常発現を高度に防止できる技術を開発する。また、放流種苗の小型化を可能とする技術を開発する。	H23	H27	A	研究成果は目的を十分に達成した。	「ヒラメ仔魚期の光の使用法や閉鎖循環飼育と低塩分海水の使用など、生産現場で十分活用される成果である」とのことで、今後の成果の活用に期待が持たれました。実際のデータを資料として入れて頂けると、よりわかりやすくなると感じました。→資料をお送り頂きありがとうございました。内容がよくわかりました。資料「ヒラメ仔魚がワムシ摂餌に要する照度について」の図3と図4にズレがあるように思います。ご修正下さい。→(対応済)(仲川)

試験研究機関名 内水面水産試験場
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
7	生産力と経営の強化による自給率の向上と所得の向上	内水面資源の増殖技術開発試験	内水面重要水産資源の増殖手法の開発	経済的に負担が少なく、生物的に効率的で、生態系を有効に活用しつつこれと融合した増殖手法を開発する。これにより、内水面漁業協同組合の経営の向上、活動の活発化ひいては内水面漁業の振興に寄与する。	1 アユ、イワナ等の人工産卵床の造成技術開発 2 河床耕耘による河川の生産力向上技術開発指導 3 ワカサギ等の増殖技術の導入・改良	H23	H27	A	ヒメマスの資源量の推定、人工産卵床の造成等の目的は達成されたが、種苗放流との効果比較が未解明であるので、次期計画で達成されたい。	目的に沿った研究成果が得られているように感じました。実際のデータを資料として入れて頂けると、よりわかりやすくなると思いました。→ヒメマスやワカサギの資料をお送り頂きありがとうございました。内容を理解することができました。(仲川)